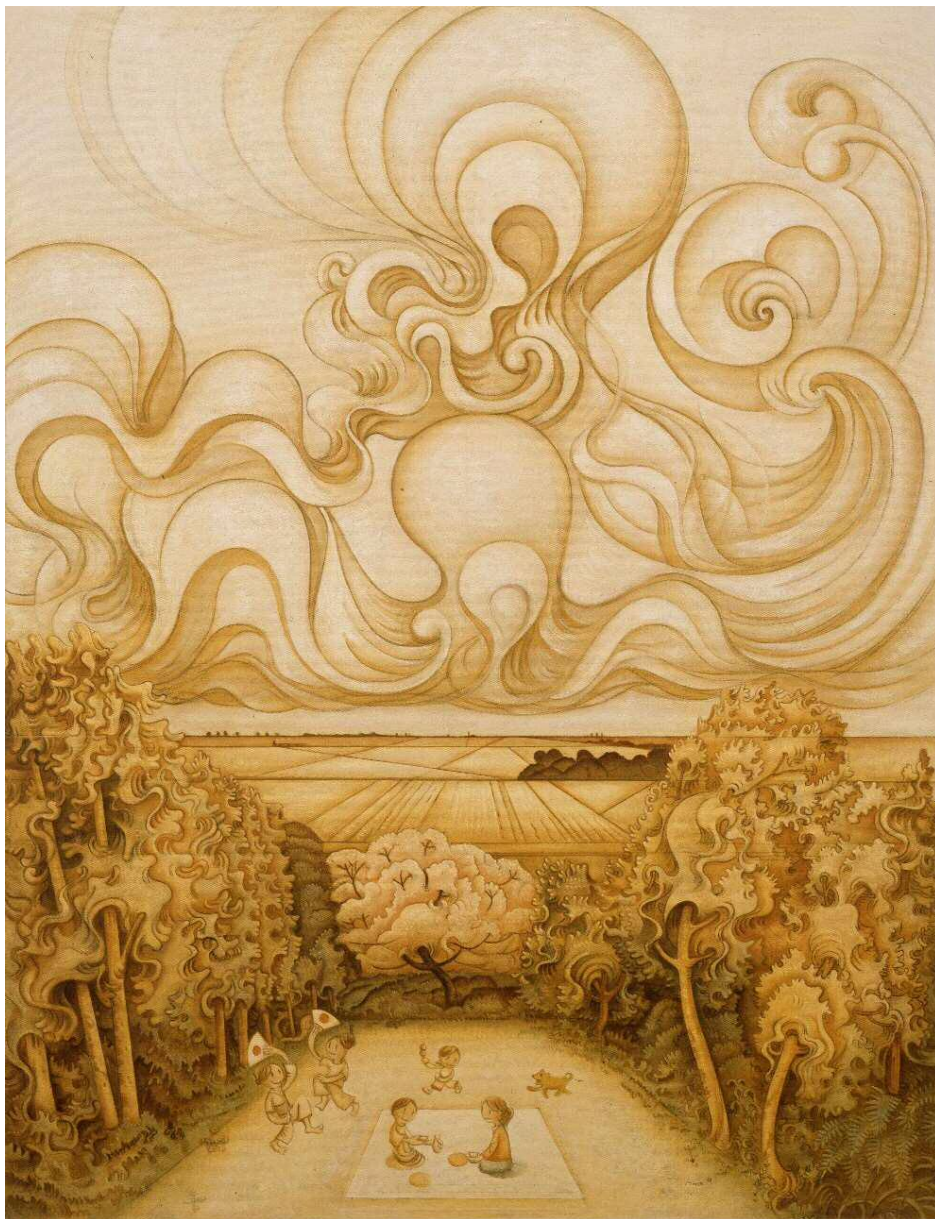


Press Release
2024年2月
名古屋市美術館

2024年4月6日(土)-6月9日(日)

特別展「吉本作次 絵画の道行き」を開催します



《田園の宴会》2008年

1980年代、美術の分野において、空間を演出するインスタレーションという展示形式が隆盛していく中、大画面に「物語」を紡ぐ具象絵画の一群が現れました。「絵画の復権」を強く印象づけた国際的な動向でもある“ニュー・ペインティング”の流れに乗り、名古屋において鮮烈なデビューを果たしたのが画家・吉本作次(1959年、岐阜県生まれ)です。うねりを伴う力強いストローク(筆触)と重厚な質感、それとは対照的なグラフィカルなイメージや浮遊するような形態が展開する大画面の作品で注目を集めました。

1990年代以降は、新たな表現の模索のためドローイングを繰り返し、中国絵画の筆法から「線」の要素を取り入れていきます。またルネサンス以降のヨーロッパ絵画の主題と構図に着目し、静けさとダイナミズムを併せ持つ表現と寓話的画題へ変貌を遂げました。2005年からは名古屋芸術大学教授を務め、絵画論の講義を担当するなど、理論と実技指導の両面から後進の育成にあたっています。

本展では、絵画、ドローイングあわせて約200点の作品を通して、1980年代以降の日本の現代美術における絵画の展開を知る上でも欠くことのできない存在である画家の独自の「道行き」を紹介します。

展覧会の見どころ

1. 初の本格的な回顧展

2005年以降、吉本作次はほぼ毎年、個展やグループ展など定期的な発表を続けています。その展開について、初期から最新作まで、約40年にわたる画業を網羅する初めての展覧会となります。

2. 初期作品を約30年ぶりに公開

1980年代の初期作品の多くは、制作・発表されてまもなく作家の手元を離れ、その後長らく展示・公開の機会に恵まれずがありました。本展開催にあわせ、約30年ぶりにまとまった数の作品を一堂に介し、発表当時大きな注目を集めた作品群をご堪能いただきます。

3. 作家の創作の源泉となるドローイング作品を多数展示

1990年代以降、新たな表現の模索のためドローイングを繰り返した画家にとって、これらの作品群はその後の創作の源泉となる重要なものです。展覧会準備に併せて調査、撮影を行ったドローイング作品を地下の常設展示室3にて多数展示し、画家の構想と思索の過程に迫ります。

4. 展覧会図録を作家初の作品集として刊行

本展出品作品のほか、作家の言葉、担当学芸員による論考、書誌情報等を収録した作家にとって初めての作品集を青幻舎から刊行します(4/27より館内ミュージアムショップにて先行発売予定)。

展覧会概要

- (1)展覧会名 吉本作次 絵画の道行き YOSHIMOTO Sakuji; Pictorial Pilgrimage
- (2)会 期 令和6年4月6日(土)-6月9日(日)[56日間]
休館日:月曜日[4月29日(月・祝)、5月6日(月・休)は開館]、4月30日(火)、5月7日(火)
開館時間:9:30~17:00、5月3日(金・祝)を除く金曜日は20:00まで
※入場は閉館の30分前まで
- (3)会 場 名古屋市美術館(名古屋市中区栄2-17-25 芸術と科学の杜・白川公園内)
TEL:052-212-0001 FAX:052-212-0005
- (4)主 催 名古屋市教育委員会・名古屋市美術館、読売新聞社、メ〜テレ
- (5)後 援 名古屋市立小中学校PTA協議会
- (6)協 賛 名古屋芸術大学
- (7)協 力 ケンジタキギャラリー、名古屋市交通局
- (8)入 場 料 一般1,500(1,300)円、高大生900(700)円、中学生以下無料
※()内は前売及び20人以上の団体料金
- (9)関連催事 ①記念講演会「吉本作次—絵画論」4月21日(日)
②学芸員による解説会
4月27日(土)「ストロークとドローイング—1980年代以後、絵画の道行き」
5月19日(日)「吉本作品にみる西洋絵画の技法」
※上記はいずれも14:00~15:30(開場は13:30)、名古屋市美術館2階講堂
定員=180名(当日先着順、定員になり次第締切)、入場無料
ただし聴講には展覧会観覧券(観覧済みの半券可)が必要。
③子ども鑑賞会「作家と一緒に見よう」5月12日(日)14:00~15:00
対 象=小中学生(保護者の同伴可)、定員12組、事前申込制、先着順
参加費=無料(同伴の保護者は別途チケットが必要)
申 込=名古屋市電子申請サービスより「名古屋市美術館」と検索、応募
- (10)公式サイト <https://art-museum.city.nagoya.jp/>
- (11)展覧会構成 第1章 1980年代
第2章 1990年代
第3章 2000年以降
第4章 2019年以後

「吉本作次 絵画の道行き」広報用画像の提供について

特別展「吉本作次 絵画の道行き YOSHIMOTO Sakuji; Pictorial Pilgrimage」をご紹介いただく際の広報用画像を提供いたします。下記注意事項をご確認の上、専用フォームにより申請してください。

広報用画像提供依頼専用フォームはこちら
→<https://logoform.jp/form/mX9C/464873>



● 展覧会をご紹介いただく場合

・本展をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で校正を下記問い合わせ先までメールにてお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

・掲載・放送後は、掲載紙・誌、または同録データもしくはDVD等を1部お送りくださいますようお願いいたします。WEBサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

● 画像掲載について

・画像の使用は本展を紹介する場合に限らせていただきます。展覧会終了後の放送・掲載はお断りします。また本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合はご連絡ください。

・ご使用の際は、指定のキャプション表記をお願いします。

・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。

・以上の点にご留意いただけない場合、所有者などとの間にトラブルが生じることがあります。その場合、主催者側では一切責任を負いかねますのでご注意ください。

・画像は原則データでの送付とさせていただきます。必ずメールアドレスをご記載ください。

● 読者プレゼントの提供について

・本展をご紹介いただく場合、ご希望があれば本展招待券を貴媒体読者プレゼント用に提供します(5組10名様まで)。専用フォームにてお申し込みください。

● 展覧会の取材・撮影について

・本展の取材・撮影をご希望の場合は事前にご連絡ください。ご連絡がない場合、お断りすることがあります。


【広報に関するお問い合わせ】

名古屋市美術館（広報担当：魚住）

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-17-25 TEL：052-212-0001 FAX：052-212-0005

メール：ncam_gakugei@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

特別展「吉本作次 絵画の道行き」 広報用画像一覧

画像	キャプション	画像	キャプション
<p>1.</p> 	<p>《田園の宴会》2008 年</p>	<p>6.</p> 	<p>《メイン州の思い出》 1986 年</p>
<p>2.</p> 	<p>《森の学者》2020 年</p>	<p>7.</p> 	<p>《修行の山-lunch time》 2008 年</p>
<p>3.</p> 	<p>《中断された眠り I》 1985 年</p>	<p>8.</p> 	<p>《日没の牧人》2011 年</p>
<p>4.</p> 	<p>《Wisdom-tooth(親知らず)》1985 年</p>	<p>9.</p> 	<p>《化現の社の杉》2020 年</p>
<p>5.</p> 	<p>《Good-Bye Tomato》 1986 年</p>		

展覧会紹介文例

【50 文字程度】

吉本作次(1959-)の約 40 年にわたる画業を油彩とドローイング約 200 点で紹介する初の本格的な回顧展。

【100 文字程度】

1980 年代、国際的な美術動向である“ニュー・ペインティング”の流れに乗り、名古屋で鮮烈なデビューを果たした画家・吉本作次(1959-)。初期から現在まで約 40 年にわたる画業を油彩とドローイング約 200 点で紹介します。

【200 文字程度】

吉本作次(1959-)は 1980 年代、力強い筆触と重厚な質感、グラフィカルなイメージや浮遊するような形態が展開する大画面の作品で注目されました。模索の時期を経て、ルネサンス以降のヨーロッパおよび中国の絵画から主題や構図、筆法などを貪欲に学び、現在も新たな表現を探究しつづけています。本展では約 200 点の油彩とドローイングにより、日本の現代美術における絵画の展開を知る上で重要な画家の独自の「道行き」をたどります。